

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170101186		
法人名	医療法人社団 内科小児科山脇医院		
事業所名	グループホームふたば まんようの家(1F)		
所在地	鳥取市国府町稲葉丘3丁目303		
自己評価作成日	平成28年9月21日	評価結果市町村受理日	平成28年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://15.ocn.ne.jp/~hamayu/">http://15.ocn.ne.jp/~hamayu/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164
訪問調査日	平成28年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・法人内の各事業所が開催する行事や催しに参加し、繋がりを深めている。
- ・地域の行事に積極的に参加すると共に、町内会にも入れて頂き活動している。(納涼祭、清防災訓練等)
- ・運営推進会議のメンバーが多方面、多領域で構成されている。
- ・町内会の防災訓練と一体で実施し、緊急時においても町内からの支援がある。
- ・畑での野菜の育苗、収穫などを通し活動の幅を広げている。
- ・1日1500ml(水分制限のある方は含まない)の水分補給を行っている。
- ・セルフチェックシートを活用し職員のサービスの質を一定にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は誰もが生き生きと明るく、良好な人間関係の中、やりがいを持って仕事に取り組んでうかがえた。  
 事業所独自に作成されたセルフチェックシートは、地域密着型サービスという意義や、理念に込められている利用者に対する尊重の気持ち、また日常的なケアサービスに対する自己評価項目、半年ごとに全職員が活用し、より良いサービスの向上に役立てられている。  
 運営推進会議で出た意見や、利用者や家族、また職員からの提案等は、すべて管理者の元へ、内容に応じて運営にも反映されている。地域行事にも積極的に参加され、日常的に散歩を行うなど、地域とのつながりを大切にサービスに努められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		



# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊重・協働・共感」やすらぎのあるホームを目指している。会議や毎朝の朝礼の際に触れたり、職員室等に理念を掲示したり、職員一人一人がセルフチェックシートを用いて、理解、確認出来るようにしている。	運営推進会議での提案を基に、法人とは別に事業所独自の理念を、職員全員で一年かけて作成し、玄関のわかりやすい所に掲示されている。職員は常に意識し、実践できるように努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に可能な限り参加出来るように取り組んでいる。(公園の清掃活動、納涼祭等)日々の散歩を通し、町内の方々と顔なじみになれるようにしながら、防災訓練等を開催し地域との交流を深めている。	エントラ毎に町内会に加入し一斉清掃に参加するなど、地域の一員として日常的に交流されている。事業所で行われる行事等も、町内の回覧で案内したり、地域の行事にも積極的に参加し、交流を深められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生の研修や中学生の職場体験を通じて、認知症の理解や支援の方法について学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に一度、必ず開催し、家族・町内・小中学校・消防署・行政等の代表参加の下、報告、意見交換、提言を頂いている。その場で出た意見を生かし業務改善を行っている。	運営推進会議の委員は、家族や行政に加え、地域の様々な分野の代表者から構成されている。出席率も高く、毎回全員が発言されている。年に一度、利用者と昼食を共にするなど、現状把握と話しやすい雰囲気作りにも努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	国府総合支所市民福祉課課長、鳥取市東健康福祉センター所長が、推進会議のメンバーであり会議を通じて相談しながら協力関係を築いている。	日頃から連絡を密に取り、十分な協力関係が築かれている。 現在も、後見人制度について包括に相談をするなどの連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	買い物等で職員が出てしまい、入居者9名に対し職員1名の場合、又は入居者の方々に危険が及びかねない時(夜間、早朝)は、玄関に施錠を行っているがそれ以外は見守りを重視している。	夜間を除き、基本的に玄関の施錠は行われていない。外に出て行こうとする利用者にも、やりたいことをしてもらおうという気持ちで寄り添い、見守りされている。 毎年研修を行い、職員全員が正しく理解するよう取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員のオリエンテーションにおいて、虐待防止の徹底を伝達している。また虐待についての資料提供を行い、且つ研修会参加の伝言等を通じて、職員に周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について全職員が十分に理解している所まで至っていない。今後学ぶ機会を設け、全職員ができるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金表、利用約款等を元に、家族への説明を行っている。個人情報についても同意書を頂いている。介護保険の改定等に伴う料金の変更では、文章での通知と個別の相談により理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方の発言や、その場の雰囲気を感じ取るように努めている。ホーム内にご意見箱を設置し、意見出来るようになっている。年2回の家族会でもご意見を伺い、反映出来るように努めている。	年1-2回、家族会を開催し意見を聞くほか、日頃から面会時等を利用して、積極的に話をするように努められている。 様々な行事に参加してもらわれ、家族同士の横のつながりもでき、温かい雰囲気が感じられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会より月1回の業務改善会議に提起し職員の意見を聞く機会を設けている。個別でのテーマの話し合いが必要な場合には、代表者も参加し意見交換を行っている。	主任は日常的に職員とよく話し、様々な意見、要望に耳を傾けられている。それらを毎月行われる業務改善委員会の場で管理者に伝え、運営に反映させる仕組みが整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	セルフチェックシートを活用し職員の個々の様子や仕事ぶりについて把握できるように努めている。また、管理者との面談を通じ、個々が働きやすいように職場環境などの整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年3回の研修会、又各部署で年4回のスタッフ会議を行っている。外部研修についても情報提供を行い、学ぶ機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会鳥取支部主催の相互研修に参加しており、交流を通じてサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、不安な事や要望等を聞き取り、理解しながら関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活状況全般を含め、ご家族の思いや要望、不安な事などを聞き取り反映し、共有できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時において必須なサービスを判断し、他のサービス利用も含めたもっとも適した支援が、提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方達から日々教わり、生活場面で困ったり、意見を聞きたい時には一人一人に問いかけるようにしている。職員だけで解決するのではなく、相談し助け合える家庭的な関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活での出来事や体調の様子など1か月に一度近況を手紙にて報告している。また、面会時にも口頭で日々の様子を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り入居者の要望に応じた馴染みの生活が営めるように努めているが、家に遊びに来て頂けるような関係作りまで至っていない。	墓参りや行きつけの美容院へ行くなど、これまでの馴染みの関係性等を家族からも聞き取り、本人の思いができるだけ叶えられるような支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話ややり取り、雰囲気を読み取り、職員は関係が円滑になるように努めている。また、孤立しがちな入居者には職員からの声掛けなどで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむなく入院等で治療を要し、退去となった場合には、ご家族の意向を汲みつつ他のサービス業者を紹介したりと相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	同じ言葉かけや対応でも入居者の方、一人一人受け止め方が異なる事を頭に置き、日々の生活で得た情報などを元に入居者の意向、希望を把握する様努めている。	常に利用者の表情や雰囲気気に気を配り、思いや気持ちをくみ取るよう努められている。気付いたことは職員間でも常に情報を共有し、一人ひとりに添った支援を心掛けられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を元に一人一人の背景を知り、糸口が見出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の主観だけで判断せず、入居者との関わりの中で知りえた情報や、その方の性格を元に出来る事を見つけ出すように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族から聞き取りを行い計画書に反映している。ケア会議を半年に一回、モニタリングを3カ月に一回行っている。各担当者により月一回、計画の実施状況を記入し、見直しを行っている。	家族や関係者と十分話し合った上で介護計画を立て、定期的かつ必要に応じて見直しを行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や医療面、ケアの実践等の内容を個別に詳しく記入し、職員間で情報を共有、連携し、介護の実践や計画の見直しが図れる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列の医院が主治医の方は、2週に1回定期受診をしている。状態によって医師が往診に来ている。訪問看護にて、入居者の状態を把握し対応している。主治医が他病院である時でも、通院介助を行う時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議メンバーの中に、町内会長、民生委員、ボランティア、消防、行政、教育機関に精通した方々が含まれており、各見地からの発言を元に意見交換し、連携を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の大半は系列医院の患者でもある。入居時点で本人、ご家族の希望で同医院に変更される事もあるが、詳細を説明し同意を得ている。主治医が他法人であっても医療的な相談に応じて頂いている。	本人や家族の希望に添った受診支援が行われている。 系列医院の認知症専門医や、地域の歯科医とも連携を図り、適切な医療を受けられる体制を整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列の訪問看護の看護師に週に5日訪問してもらい、健康チェックや医療面での相談や助言をもらっている。看護師を通じて系列の医師や看護師と、医療面での情報を共有し連携を深めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族又は、病院の地域連携室を通じて情報を確認している。入院された際は早急に訪問し、本人の状態や様子を確認するよう努めている。また、病院の治療計画、退院計画に沿って対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族、事業所の三者で結束を密にし、状態の悪化や重度化の兆しが生じた場合には、治療方針や支援方法を話し合い、決めていくようにしている。	系列の医院と連携し、24時間365日対応できる体制が整えられている。 職員の研修も毎年行い、家族との話し合いも綿密に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我、誤嚥等の対処方法や救急法(AED)などの年1回、鳥取消防署国府分遣所に依頼し、職員を始め系列の事業所、町内の方にも参加を呼び掛け、急な事態に備えるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、国府分遣所に派遣依頼を行い、夜間想定での避難訓練を行っている。町内会も参加し、協力体制を築いている。	事業所の訓練の他、地域の避難訓練にも参加され、協力体制を整えられている。 夜間を想定した訓練も行い、全職員が避難方法を身につけるよう努められている。	水や食品、毛布等の備蓄があると安心だと思います。 地域の方に施設内を見学してもらい、状況を理解してもらおうとよりスムーズな避難誘導ができると思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方、一人一人の気持ちを尊重し、押しつけにならない関わり方を徹底している。羞恥にさらさない声掛けや、心がけを大切にすることを職員は個々で理解している。	家庭的な雰囲気の中でも、なれなれしい発言は控え、常に年配者への敬意を持った言葉遣いをするよう心掛けられている。スタッフ間でもちゃん付けで呼び合うようなことのないよう、意識を高く持たれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物、やってみたいもの、行ってみたい所等、入居者の意見を取り入れていくように常に問いかけたりしているが、意見を言ってもらえない場合もあり、自己決定を上手く活かしきれていない部分もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方達の生活のリズムを最大限に優先するように心がけているが、職員の都合を優先してしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の方に出来る事は、自身で行ってもらうように心がけているが、衣服を選ぶ際など職員が介助してしまっている場面もある。2ヵ月に1度理容師にきてもらい、散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる際、入居者の方に個々に問いかけを行っている。同じ献立を希望されることもあり、職員の主観で決めてしまう事がある。調理の下準備、盛り付け等入居者の方に手伝って頂きながら行っている。	1ヶ月ごとの献立を決めるのではなく、その日に旬の物や利用者の希望を聞いて買い物、調理をされている。外部評価訪問時にも、利用者が野菜の下ごしらえを行い、楽しんでいる姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日記録している。水分制限のある方は、範囲内で提供している。併設の老健の管理栄養士に適宜栄養バランスをチェックしてもらい、アドバイスを元を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けをし、自分で出来る方にはして頂いている。介助を要する方には義歯を洗うなどして支援し、1週間に1度は洗剤で義歯を浸け置き洗いしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレにて排泄してもらう事を基本に、布パンツに尿取りパットで対応し、オムツを使用しないように努めている。	入居時紙パンツに比べて布パンツになつたり、パットの大きさが小さくなるなど、自立に向けた支援を一人ひとりに合わせて行われている。 排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心掛けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や浣腸になるべく頼らない支援が提供できるように、1日の水分量1500ml以上の摂取、散歩への参加、また体操を取り入れながら、食物繊維の豊富な食材を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に6日入浴日を設け入浴して頂いている。利用者毎に週3回、入浴して頂いているが、希望があればいつでも入浴して頂いている。月に1回は同法人吉岡デイサービスへの入浴を行い、温泉を楽しんで頂いている。	基本的に利用者の希望に添った入浴が出来るよう体制を整えられている。 月に一度、同法人のデイサービスにある温泉も楽しんでもらうなど、入浴を楽しむ支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転した生活にならないように、日中の活動を通して体を動かしたり、散歩をして外気に触れたりして生活リズムを整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は薬手帳に綴じ職員が把握出来る。服薬時は薬袋の名前を確認、声に出して複数の職員が確認し、飲み込みを確認している。薬の使用で変化が見られるときは、医療機関へ連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や趣味、得意な事を発揮できる場を作り、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週3回食材の買い物に、職員と一緒に車や徒歩で出掛けている。原則、毎日散歩している。ご家族から外出の申し出があれば、主治医の意見を聞き、外出して頂いている。行事を通して、入居者全員で外出するようにも取り組んでいる。	悪天候でなければ、毎日散歩に出かけられている。農業をされていた利用者が多く、近くにある畑で、水やりや収穫をしたり、成長具合を確認することで大変喜ばれている。 外食や喫茶、ドライブ等も季節に合わせて行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している利用者はいませんが、職員と一緒に買い物に出かけたとき、欲しい物を伺い、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、要望があれば行っている。月1回職員がお便りで近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの各所に協働で作成した作品を展示している。また、季節感や親しみを感じられるように、四季を通じた工夫を行いながら、入居者の方々が不快に感じないよう温度管理なども行っている。	共用空間は清潔に保たれ、壁には入居者の写真や作品が飾られ、温かい空間づくりに努められている。 日中テレビがつけっぱなしということが全くなく、作業をしたり歓談したりと、和やかに過ごされている様子が見ええた。	玄関を入ったところが暗く、少し立ち寄りづらい感じがします。 また掲示物にもう少し季節感のあるものを取り入れるなどの工夫をしてはどうでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの一部が畳であり、横になったり本を読んだりゆっくり過ごせる空間が出来るようにしている。また、廊下などに椅子を設置したりと思思いの場所でくつろげるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や、趣味の持ち物など、いつでも使用できるよう安心して心地よく過ごせるように努めている。	居室はどこも清潔に保たれ、馴染みの家具や飾りが置かれ、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の生活歴や得意分野を元に、生活全般で出来る事を見つけていけるように努めている。また、ホーム各所に文字や絵柄の表示をし、出来るだけ自身で生活ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容



















